

大学史編纂課だより

第4号

2013年1月29日 発行

目次	目次
調査収集	連載
◇松岡康毅関係アルバム…………… 2	◇日大・オリンピック③…………… 5
◇関東大震災前の卒業写真帳を入手…………… 3	◇太平洋戦争と学徒③…………… 6



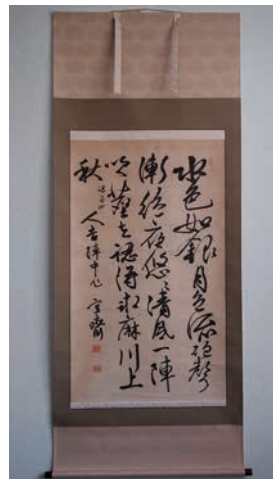
琴似神社拜殿

屯田兵と山田顕義

明治初期、政府は北海道に屯田兵を入植して警備と開拓を行う計画を立て、明治8（1875）年5月には208戸が琴似の屯田兵村に入植しました。

明治10年2月、九州で「西南戦争」が勃発すると、4月には屯田兵も増援に派遣され、石貫〔熊本県〕に上陸し、山田顕義少将率いる別働第2旅団に編入されました。彼らは各地の戦場で奮戦し、「近衛兵か屯田兵か」と賞賛されるほどの評価を得ました。札幌市西区の琴似神社には、山田が激戦のあった人吉〔熊本県〕で詠んだ、漢詩の書幅が納められています。

明治12年3月、「西南戦争」での戦病死者の霊を慰めるために、招魂碑を建立することになりました。題字は征討総督だった有栖川宮熾仁親王で、山田顕義が撰文しました。現在この碑は、札幌護国神社境内に置かれています。



山田顕義書幅（琴似神社蔵）

水色如銀月色流 砲声漸絶夜悠々
清風一陣吹塵去 認得求麻川上秋
人吉陣中作 空齋

求麻川=球磨川（熊本県）

調査収集 松岡康毅関係アルバム

このたび、大学史編纂課では、本学2代校長・初代学長・初代総長の松岡康毅に関する写真アルバム2冊を入手しました。アルバムは縦28cm、横22.5cm、総革張りの重厚なつくりで、中には写真69点が収められています。アルバム本体はドイツ製のようで、収録されている写真は、台紙から判断してドイツ・フランスで撮影されたものが多く含まれています。松岡は、明治19～20年にかけて裁判実務視察のためドイツ・フランスを歴訪しましたが、写真の中には、ドイツやフランスで撮影された松岡



松岡康毅関係写真アルバム

の写真4点が収録されていました。これらの内容から判断して、2冊のうち1冊は松岡康毅がドイツ・フランス滞在時に入手した写真である事がほぼ判明しました。

この写真アルバムは、明治20年頃の松岡康毅の姿を示す資料としても貴重ですが、本学にとって別の意味でも貴重な発見がありました。松岡はドイツ・フランス滞在時に、本学の創立者の一人である平島及平を通訳として随行させましたが、この平島の写真1枚がアルバムに収録されていたのです。

平島及平は熊本出身で司法省法学校の第2期生として明治17(1884)年に卒業し、明治19年から松岡に随行してドイツに滞在します。明治21年に帰国し、翌年日本法律学校創立に参画しました。これまで本学では、平島について著作以外には詳しい履歴が分らず、写真も確認できていませんでしたが、アルバムには、「謹呈松岡局長 平島及平」と裏書のあるベルリンで撮影された写真が収録されていました。

今回の発見で、日本法律学校創立者11名のうち、10名の写真を確認することができました。創立者のうち上條慎蔵だけが写真を確認できていませんので、上條について何か情報をお持ちの方がおられましたら、大学史編纂課までご連絡いただければ幸いです。

この写真アルバムについては、まだまだ不明な点が数多く残されていますので、さらに調査を進めて、人物の特定などを進めていければと考えております。

最後に、この写真アルバムの情報提供及び資料保全にご尽力いただきました法学部山川一陽教授、商学部根田正樹教授に御礼を申し上げます。



松岡康毅（明治20年頃）



平島及平（明治20年頃）

（松原）

関東大震災前の卒業写真帳を入手—工科土木科卒業記念写真帳—

平成24年10月、所沢市在住の小野初枝氏より、大正12（1923）年7月の日本大学工科土木科卒業記念写真帳をご寄贈いただきました。これは、本学理工学部の前身である日本大学高等工学校第2回生の卒業写真帳です。大学史編纂課では、卒業写真帳の情報性を重視してこれまで積極的に収集してきましたが、関東大震災前の写真帳は初めて入手することができました。



工科土木科卒業記念写真帳（大正12年7月）

大正12年9月の関東大震災で、本学のほとんどの校舎が焼失しましたが、この写真帳には、震災前の校舎写真が鮮明に記録されています。貴重な写真帳をご寄贈いただきました小野氏に心より御礼申し上げます。



震災前の駿河台校舎入口付近

（松原）

寄贈資料 第7代総長高梨公之関係資料

大学史編纂課では、平成24年6月に、高梨育子氏から第7代総長高梨公之関係資料をご寄贈いただきました。高梨総長は、昭和8（1933）年4月に本学予科に入学、その後法文学部法律学科に進みました。学生時代から大学対抗の法律討論会で優秀な成績を修め、在学中の昭和12年に高等試験（司法科）に合格しています。

昭和15（1940）年に本学予科講師となり、昭和22年法文学部教授、その後法学部長、通信教育部長、理事長、国際関係学部長などを歴任し、昭和59（1984）年9月に第7代総長に就任しました。在任中の平成元（1989）年10月には、天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、創立100周年記念式典を挙行しています。

このように、高梨総長は、長きにわたり本学と関わりを持っていることから、寄贈資料には多様な資料が存在しています。なかでも写真は、戦前の予科・法文学部時代、戦後の学部行事、記念式典、理事会、有朋会（高梨ゼミOB会）、100周年記念など多岐に及んでいます。この他に、学祖山田顕義、校長を務めた金子堅太郎や松岡康毅などに関する資料や原稿類も含まれています。目下整理を進めていますが、これらの資料は、今後高梨総長の事績と本学の歴史を明らかにする上で貴重なものといえます。



高梨家寄贈資料の一部

（小松）

学祖事績調査 政府軍・西郷軍決戦の地（宮崎県延岡市）



西郷軍本営跡に建つ「和田越決戦之地」碑

明治10（1877）年2月、西郷隆盛陸軍大將は、薩摩私学校党を主力とする13,000名の兵を率いて鹿児島を進発し、鎮台が置かれている熊本城を包囲しました。西郷軍が出兵したとの報告を受けた明治政府は、ただちに鹿児島県逆徒征討の詔を発し、ありすがわのみやたるひと有栖川宮熾仁親王を征討総督（総司令官）、山県有朋陸軍中將と川村純義海軍中將を参軍（副総司令官）に任じ、2個旅団を派遣。西南戦争の火蓋が切られました。

司法大輔（次官）として明治天皇の京都・大和行幸に随行していた山田顕義陸軍少將は、3月、別働

第2旅団司令長官に任ぜられ、神戸を出港し長崎を経て八代〔熊本県〕へ上陸し、熊本城へと進撃します。熊本城周辺での戦闘を繰り返しながら勝利を得て別働第2旅団が熊本城に入城したとき、西郷らはすでに城北方面から撤退しており、政府軍は西郷軍を追って、人吉〔熊本県〕へと転戦します。

さらに、人吉での決戦に敗れた西郷軍主力は、当時は鹿児島県の管下にあった宮崎方面へと敗走。都城から佐土原・美々津・延岡へと北上します。延岡では、西郷と山県の直接指揮の下、8月15日、両軍主力による決戦が起り、政府軍の勝利に終わりました。

今回の学祖事績調査は、西南戦争で最終決戦の地となった和田越決戦場のある宮崎県延岡市を中心に行いました。

延岡市立図書館で文献の調査を行ったところ、『延岡市史』をはじめ『日向市の歴史』・『門川町史』・『高原町史』・『南郷村史』などの西南戦争に関する記述には「別働第2旅団長の山田顕義少將」と、学祖山田顕義が登場しています。

これらの市町村史は、いずれも西郷軍を追って進軍する政府軍の通り道に位置する自治体になります。それぞれ地元の郷土史の叙述において、西南戦争に関しては『征西戦記稿』（参謀本部陸軍部）『西南征討志』（海軍省）や『新編西南戦史』（陸上自衛隊北



山田顕義少將宿営之地
（延岡市三須町）

熊本修親会編）といった基本的な文献（資料）をもとに、自分たちの町村に残る文書（古文書）や言い伝え（伝聞・聞き書き）などを加味して纏め上げられていることが分かります。そうして出来上がった郷土史をもとに、「別働第二旅団長山田顕義少將宿営之地」（標杭）や「和田越決戦配置図」（看板）などが作成されていったのでしょう。

今回の調査では、各市町村の史料までは調査できませんでしたが、まだまだ未見の資料があるかもしれません。

（田淵）



和田越決戦配置図

連載 日大・オリンピック③

第11回ベルリン大会後、第二次世界大戦により予定されていた第12回東京・第13回ロンドン大会が中止となり、終戦後はじめてのオリンピックは、昭和23（1948）年第14回ロンドン大会でした。しかし、敗戦国であるドイツと日本は参加が承認されなかったのです。

4年後の昭和27（1952）年7月、フィンランドのヘルシンキで第15回夏季オリンピックが開催されました。日本としては実に16年ぶりの参加です。



『第十五回オリンピック大会報告書』（1953年日本体育協会刊）所収

も水泳が中心で、古橋廣之進（法文学部政治経済学科26年卒）をはじめ橋爪四郎（法学部政治経済科26年卒）・浜口喜博（日本鋼管）・西野恭正（専門部歯科21年卒）・倉橋範彦（経済学部商業学科）・鈴木弘・谷川禎次郎（経済学部経済学科）・平山緯保・毛利勝一、そしてコーチはロサンゼルス・ベルリンの金メダリスト遊佐正憲（法文学部法律学科13年卒）。ボクシングは、監督の柴田勝治（高等師範部国語漢文科8年卒）、全日本選手権フライ級優勝の実績を持つ永田吉太郎（法学部政治経済学科）。陸上競技に、日本・関東インカレ100m・200mの覇者細田富男（法文学部法律学科25年卒）が派遣されました。



ボワトー選手と（右端古橋、2人目ボワトー）

国際社会へ復帰した日本が、この大会でもっとも期待したのは、もちろん水泳競技だったでしょう。終戦直後から、国内選手権や全米選手権・ブラジル国際大会などで、自らつぎつぎと世界記録を塗り替え「フジヤマのトビウオ」のニックネームで世界にその名を知られた古橋廣之進が、入場行進で主将として日本選手団の先頭を行く姿は、水泳王国日本復活を象徴すべく、ヘルシンキ大会への意気込みを見せたのです。

しかし、古橋は400m自由形で決勝に進んだものの、結果は8位（4分42秒1）でした。優勝したフランスのボワトー選手のタイムは4分30秒7、以下7位までの選手がオリンピック新記録でした。遠く日本で吉報を待ち焦がれていた人々には、誠に残念な結果でした。もっとも、1500m自由形で橋爪が銀メダル、800m自由形リレーで鈴木・浜口・後藤暢（浮羽高）・谷川の日本チームが、いずれもオリンピック新記録で銀メダルを、また鈴木弘が100m自由形で見事銀メダルを獲得していることを忘れてはいけません。

日本選手メダリスト（ゴシック日大選手）

金	石井庄八	レスリング（バンタム級）
銀	鈴木弘	競泳100m自由形
	橋爪四郎	競泳1500m自由形
	鈴木弘・浜口喜博 後藤暢・谷川禎次郎	競泳800m自由形リレー
	北野祐秀	レスリング（フライ級）
	上迫忠夫	体操徒手
銅	竹本正男	体操跳馬
	上迫忠夫	体操跳馬
	小野喬	体操跳馬

日本代表選手団は総勢103名（内役員31名）。陸上競技19名・水泳27名のほか、レスリング・体操・ボクシングなどの種目に、初参加のウエイトリフティング・フェンシング・射撃・自転車に選手を派遣しましたが、当時は人員枠が厳しく、サッカー・バスケットボール・水球などのチームゲームは選手を送ることができませんでした。

水泳選手が多く派遣されており、日本大学からの代表選手（OB・学生）

選手名	出場種目	結果
古橋廣之進	400m自由形	8位
浜口喜博	100m自由形 800mリレー	準決勝敗退 2位
橋爪四郎	1500m自由形	2位
西野恭正	100m背泳	第1予選敗退
倉橋範彦	100m背泳	第1予選敗退
鈴木弘	100m自由形 800mリレー	2位 2位
谷川禎次郎	800mリレー	2位
平山緯保	200m平泳	4位
毛利勝一	飛板飛込み 高飛込み	予選15位 予選29位
永田吉太郎	ボクシング（フライ級）	1回戦判定負
細田富男	陸上100m 陸上200m	第2予選敗退 第2予選敗退

（田淵）

③ 太平洋戦争と学徒③

昭和3（1928）年に創設された日本大学工学部（現 理工学部）は、私立の工学部としては早稲田大学理工学部
に次いで2番目、その中の土木工学科は私立で最初の設置でした。

工学部の建築や土木専攻の卒業生は、母体となった高等工学校時代から、官公庁に技術官として採用される者
が少なくありませんでした。その中には、陸軍省・海軍省などに勤める者もあり、軍は彼らの就職先の一つで
した。

工兵科将校や主計官も担当した陸軍と異なり、陸上における建築・土木関係の施設業務が、戦闘行動とは無縁で
あると考えていた海軍では、従事する技術者を文官として採用しました。しかし、「日中戦争」が始まると、航空
基地など戦地で作戦用の応急施設を造る必要性が生じたため、施設系の技術武官制度も検討されます。

昭和16（1941）年10月の第1期海軍兵科予備学生の募集に際しては、文官技師として採用が決まっていた者た
ちも受験させられ、35名が合格。彼らが施設系技術官として海軍で最初の武官となりました。日本大学出身者は
林泰輔・松尾勲（戦没）の2名が判明しています。

昭和17年11月1日、造船・造機・造兵科を技術科として統合すると同時に、施設系技術官にも武官制が敷かれ
ることとなります。技師から技術科士官への転官も行われ、日本大学出身者では17名の転官が確認されています。

さらに武官制を前提として、新たに施設系技術科士官となる学徒を、土木・建築・機械を専攻する者から募集し
ました。昭和17年9月採用の施設系見習尉官第1期生は、223名が採用
され、以降、19年まで3期の採用がありました。



終戦直後の第三普通部校舎
（『日本大学第三学園五十年史』より）

日本大学出身者は、1期生19名、2期生29名、3期生11名で、総数
779名中59名でした。彼らの多くは設営隊長となって、各地で飛行場建設
などを指揮しました。昭和20年5月、当時赤坂にあった日本大学第三普
通部（現 日本大学第三高等学校・中学校）の校舎が空襲で出火した際
に、駐屯していた海軍設営隊赤坂分遣隊が消火に協力しました。その隊長
は、専門部工科建築科出身の山口五郎技術中尉でした。

なお、1期生5名、2期生1名が戦没しています。

（高橋）

第3回プレミアム・カレッジ

平成24年5月12日（土）、札幌市内の札幌共済ホー
ルで第3回プレミアム・カレッジが開催されました。
第1部は芸術学部OBである鈴木舞氏が所属する「フ
ルトアンサンブル・トリプティーク」の演奏、第2
部は「石橋蓮司&たかのてるこ」のトークライブで、
500名近い参加者がありました。

大学史編纂課では、会場のロビーで北海道と山田顕義
に関するパネル展示を行いました。



プレミアム・カレッジ会場での展示

商学部での学祖・大学史展示

大学史編纂課では、商学部における平成24年4月5日～6日の新入



新入生オリエンテーションプログラム（FOP）

生オリエンテーションプログラム（FOP）と7月28日～29日のオープンキャンパスに際して、同学部2号館2205教室を使用して、学祖山田顕義や日本大学の歴史に関する資料展示を行いました。

FOPにおける展示では、商学部の教員の方々がガイド役となり、多くの学生たちに学祖や本学の歴史を解説していただきました。オープンキャンパスでは、平成24年の正月に放映された「山田顕義物語」を見たという高校生らが、家族あるいは仲間連れで興味深そうに展示に見入っていました。

生オリエンテーションプログラム（FOP）と7月28日～29日のオープンキャンパスに際して、同学部2号館2205教室を使用して、学祖山田顕義や日本大学の歴史に関する資料展示を行いました。



オープンキャンパス



オープンキャンパス（展示室入口）

全国大学史資料協議会東日本部会2012年度総会



東日本部会2012年度総会

平成24年5月31日、日本女子大学において東日本部会2012年度総会が開催され、61名の東日本部会会員が参加しました。総会後の見学会では、日本女子大学成瀬記念館、成瀬記念講堂、成瀬記念館分館を見学しました。成瀬記念館では常設展と企画展「成瀬仁蔵と自然科学教育」が開催されており、本学学祖山田顕義と同郷である成瀬仁蔵について深く知ることができました。成瀬記念講堂と成瀬記念館分館（旧成瀬仁蔵住宅）はともに文京区有形文化財に指定された建物です。目白という都心に立地しながらも、古い建築物を保存して伝統を後世に受け継いでいる姿勢が印象的でした。

開催にあたりご尽力いただきました日本女子大学成瀬記念館の皆様にお礼を申し上げます。

平成24年5月31日、日本女子大学において東日本部会2012年度総会が開催され、61名の東日本部会会員が参加しました。

総会後の見学会では、日本女子大学成瀬記念館、成瀬記念講堂、成瀬記念館分館を見学しました。成瀬記念館では常設展と企画展「成瀬仁蔵と自然科学教育」が開催されており、本学学祖山田顕義と同郷である成瀬仁蔵について深く知ることが



成瀬記念館展示室

◆ 母校に関する資料が皆さんのそばに眠っていませんか ◆

資料・情報提供のお願い

大学史編纂課では、「日本大学史」に関する資料を広く収集しています。本学の歴史・学生生活・校友の足跡等どのようなことでも結構ですので、お気軽に大学史編纂課（TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592）までご連絡ください。

活動報告

平成24年3月～9月

○調査研究

- 3月14日 靖国神社戦没学徒関係資料調査（東京都）
5月2日 東洋大学創立125周年展示調査（東京都・文京シビックセンター）
5月11日・13日 山田顕義事績調査（北海道札幌市）
5月24日・6月28日 高梨公之関係資料調査（東京都・高梨家）
5月31日 全国大学史資料協議会東日本部会2012年度総会（東京都・日本女子大学）
6月6日～8日 山岡萬之助及び小坂早五郎関係資料・史蹟調査（長野県千曲市、松本市、岡谷市）
8月1日～3日 山田顕義事績調査（山口県萩市、防府市）
9月12日 松岡康毅関係資料調査（法学部）
9月26日 高等工学校関係資料調査（所沢市・小野家）

○展示・普及

- 4月5日～6日 商学部新生オリエンテーションプログラム（FOP）での山田顕義及び大学史資料展示
5月12日 第3回日本大学プレミアム・カレッジでの山田顕義関係資料展示（札幌共済ホール）
7月28日・29日 商学部オープンキャンパスでの山田顕義及び大学史資料展示

○講演

- 4月7日 日本大学理工学部（同学部スポーツホール）
4月10日 日本大学東北高等学校（磐梯熱海温泉「華の湯」）
4月13日 日本大学豊山高等学校・中学校（同校体育館）
4月17日 日本大学国際関係学部（国際関係学部山田顕義ホール）
5月10日・17日 日本大学商学部（同学部1501・1503・1601・1602教室）
5月19日 日本大学通信教育部（軽井沢研修所）
6月9日 日本大学三島高等学校・中学校（国際関係学部8号館講堂）

N. 大学史編纂課だより

第4号

2013年1月29日 発行

編集・発行 日本大学広報部大学史編纂課
〒359-0003 埼玉県所沢市中富南4-25
TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592

印刷 株式会社 文成印刷

(2013.1.29 5000)